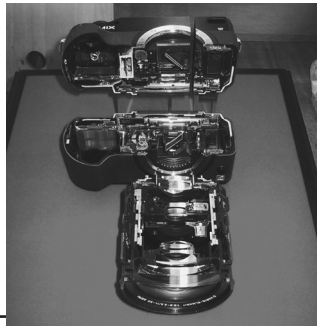


現場から。

ものづくりの魅力を訪ね歩く



職人の手作業で製作されたカメラのカットモデル

アイデア

縁の下で製品開発支え半世紀

試作モデル—。企業が新製品の開発段階で量産前にデザインや機能性を実物で検証するために用いられる試作品のことで、製品開発において欠かせない要素となる。

兵庫県神戸市の一般住宅と工場が建ち並ぶ準工業地帯に本社を構えるアイデアは1955年に創業した。船舶用エンジンの木型製作を祖業に、65年から試作モデルの制作に取り組み始め、以来、半世紀にわたって数々の品を手掛けてきた。

同社が制作するのはヨットやオートバイといった重量級の乗り物から、オフィスチェアや計量カップなど規格や分野も種々様々。一品一様の依頼に対して柔軟に対応できる所以は多彩な工法にある。NC切削、光造形、FRP成形や真空注型など細かな用途に応じた加工でクライアントの設計図からモデルを再現する。

CADデータの作成から製品の出荷まで社内で一貫生産することで短納期の体制を整えており、工場には最新鋭の5軸加工機や門型マシニングセンタのほか、850×650×500の大型積層が可能な光造形プリンタや水平流プッシュプル型の塗装・乾燥兼用ブースなども

備える。

だが、充実した設備だけでなく「職人の技術」も強みだと白石泰二社長は語る。高度な調色技術を伴う塗装や研磨など作品の出来を左右する仕上げ段階でその腕を振るう。

試作モデルと並び同社が手掛けるカットモデルも職人による凄技だ。カットモデルとは企業が展示会などで製品の断面を見せ内部構造を説明するためのもの。樹脂、金属、ガラスなど異なる素材の部品で構成された製品を分解し、ひとつひとつを断面の寸法に合うようカットして再び組み直すという地道で精度が要求される作業だが、さながら製品を一刀両断したかのような完成度をほこる。

カットモデルの依頼が来た当初は「ノウハウもなく、手探りで始めるしかなかった」（白石社長）が、こうした「来た仕事は断らない」姿勢が実を結び、今では順調に引き合いを伸ばしている。

「試作モデルが一般の方の目に届く機会はそう多くない。我々の仕事は企業さんの良い製品作りに貢献する黒子みたいなものです」と白石社長は笑う。

多彩な工法×職人の技による試作モデル

本社：神戸市西区玉津町今津608番地

従業員：14人

電話：078・911・1200

創業：1955年

事業内容：試作モデルの設計、開発、制作



全長6mにおよぶクルーザーの試作モデル